一階展示室　The first floor Exhibition

先住の民アイヌの歴史と文化

水や獣・虫や器物に化身した
神々がひしめく荘厳な世界
人びとは祈りとともに生きてきた

アイヌは、固有の言語や宗教をもち、北海道・サハリン南部・千島列島などに先住してきた人びとです。この上川盆地にもペニウンクル（川上の人びと）と呼ばれるアイヌがくらしてきました。弥生時代以降、大陸からの渡来人と混交していった本州の人びとに対して、アイヌは縄文人の血をより濃く受け継いでいると考えられています。

１階展示室では、大陸や日本などと活発な交易をくりひろげ、複雑な社会を生みだしてきたアイヌの歴史と多くの民族資料、さらに文化の伝承と創造に取り組む今日の上川アイヌの姿をご紹介します。

The Ainu people have a unique language and relegion. They are native to Hokkaido, southern Sakhalin island and the Kuril islands.
The Ainu,descended from one distinct branch of the Jomon people, have been living in Japan for over 10,000 years.
The first floor exhibition, illustrates how they traded with Japan and China actively.
The exhibition also introduces Ainu history and the culture which produced their complex society.

地階展示室　The basement Exhibition

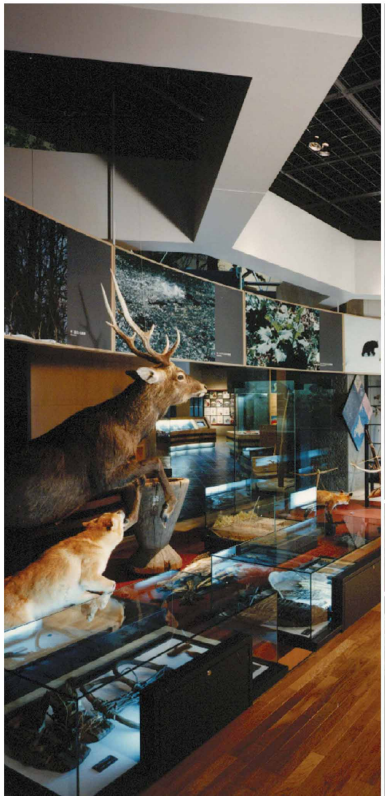
厳寒を生きぬく動植物と人

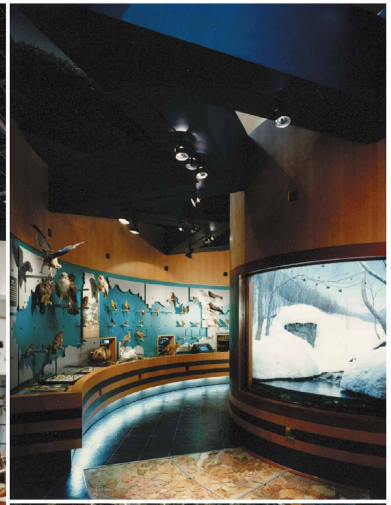
－20℃を超す凍（しば）れの大地
春の訪れと生命の乱舞
愛おしい北の故郷に生きるものたち

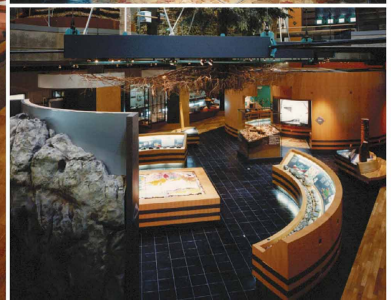
上川盆地の人類の足跡は２万年前にさかのぼります。サハリンや本州の人びととの交流を経ながらアイヌ文化の原型ができあがったのは13世紀頃のことです。19世紀のおわりには和人による開発がはじまり、その後は第七師団を擁する軍都として、また一大米作地、道北商圏の拠点として発展してきました。

地階展示室では、この歩みを多くの資料によってふりかえるとともに、私たちの命を育んできた上川盆地の地質や地形など自然のありさま、さらに私たちの仲間というべき多様な生き物たちをご紹介します。

Here in Kamikawa basin, the early history of man can be traced back 20,000 years. After the Ainu commerced trade with Sakhalin and Japan, the basic structure of Ainu culture was established in 13th century.
Mainland Japanese development didn't begin until the 19th century. The Kamikawa area developed as the core trading region of northern Hokkaido.
The basement exhibition introduces the history and nature of the Kamikawa district.







アイヌの音楽世界にふれる

旭川市博物館だけのオリジナル・ミュージックを聞く

伝統楽器トンコリを用いながら、アイヌの音楽世界に新しい波をもたらしているミュージシャンのOKIさん。旭川市博物館のリニューアルを記念してオリジナルのテーマ音楽を制作してくれました。OKIさんが奏でる旭川市博物館限定のアイヌの音楽世界。展示室でお楽しみください。

トンコリ

アイヌの物語世界に学ぶ

リーフレット限定！ アイヌの世界観を物語に学ぼう

仮装する神々

人間と同じ姿をしている神々は、人間界を訪れるとき、クマであればクマの姿になるハヨクペ（衣装）を身につけます。人間の手を借りずにこの仮装を解くことはできません。

さて、クマの神の霊を神の国に送りかえすときがきました。儀式が盛大におこなわれています。
感謝の祈りとたくさんのお土産。神の国にもどったクマの神は、そのお土産を他の神々にふるまい、神々は人間界を訪れることを心待ちにします。
アイヌの世界では、神が人間を豊かにし、人間が神を豊かにするのです。

ハルイッケウ

神が世界をつくってから長い間、アイヌは山の恵みの食べ方を知りませんでした。ある日、貧しい身なりの二人の女に仮装した神が家々を訪ね歩き、食べものを差し出しました。気味悪がって誰も口にしませんでしたが、長老が口にするとその料理はとてもおいしいものでした。

眠りについた長老の夢に先ほどの二人があらわれ、自分たちはトゥレップ（オオウバユリ）とキトピロ（ギョウジャニンニク）であると告げました。それ以後アイヌにとってトゥレップとキトピロはハル（食料）イッケウ（腰）、つまり「食料の中心」と呼ばれるようになりました。

画：黒瀬久子